

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

H30年度2年次の県学力調査の福岡県標準化得点をもとにH31年度3年次の全国学テの文科省標準化得点を次の数値以上にする。

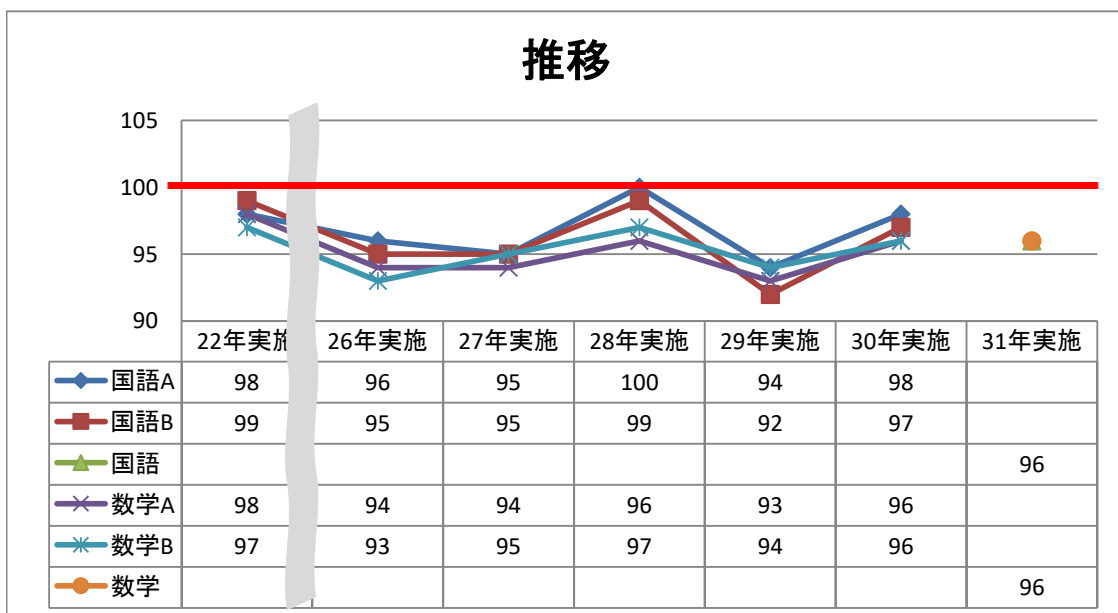
国語 92 数学 90

3.指標に向けての取組

- 国語 自校採点后、年度末まで漢字に関しては、毎時間小テストを行い、定着を図る。説明文では文章全体を読み取るのではなく形式段落の要旨をつかみ、それをつなぎ合わせて全体を読み取る方法を継続して取り組む。
- 数学 自校採点后、年度末まで生徒のつまづきを見つけるための確認テストを可能な限り毎時間行う。さらに中テストを行い不合格者には昼休み、放課後で合格するまで取り組む。学習プリントや自学ノートを活用し反復学習に取り組むことで学習内容の定着を図る。
- 国語及び数学ともに、根拠を明確にした「書く活動」の徹底を図るようにする。
- 自校採点后に取り組んだことをさらに質を上げていく(具体的には定期考査問題の質を向上させる)ことや入試に向けた復習(国語では文法、数学では関数、図形など)を週末課題等で通年で取り組ませる。また、数学では単元のイメージを掴みやすいように教材・教具の工夫に力を入れる。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	96	96
嘉麻市	97	95
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

【国語】 目標数値に対して国語 +4ポイント

「書くこと3」では、全国正答率77.8%に対して自校正答率67.4%で、その差-10.4ポイントという結果であった。また、「話すこと・聞くこと2三」では、全国正答率60.4%に対して自校正答率48.8%で、その差-11.6ポイントという結果であった。これらから、説得力のある文章にするためには自分の思いや考えを繰り返すだけでなく根拠を示す必要があることを理解して書くことが重要である。

【数学】 目標数値に対して数学 +6ポイント

記述式の問題に課題が見られた。まず、活用⑥(2)は類似問題を2年次の定期考査で出題しているため無回答率はわずかながら全国平均より低かった。しかし、正答率23.3%からわかるように論理的に説明文を書く力が不十分だということがわかる。次に正答率37.2%活用⑦(3)だが、図形に関する知識が定着していないことや予想した事柄が成り立つかどうか考察する力が弱いことがわかる。

6.各学校における今後の取組

【国語】 2学期を通して話し合い活動を授業に取り入れていく。その際、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるよう、丁寧な表し方や実際に話すように書く活動を行っていく。また、定期考査において「話すこと・聞くこと」に関する問題を出題する。

【数学】 2学期中に取り組むことは、基礎・基本の定着のために小テストをこまめに実施し、再テスト等で補充する。また、全国学テの過去問を週末課題や長期休暇中の課題として活用する。
年度末までに取り組むことは、3年生は、3学期から習熟度別分割授業を行い、3年間の総復習と入試対策、特に自分の考えを文章化して説明する問題を重点的に取り組む。

【家庭学習】 計画的な宿題(週末課題)の提示と自学ノートの取組を継続する。1年90分、2年100分、3年120分以上の家庭学習時間の確保を目指し、6割以上の生徒が達成できるよう指導し、さらに学期に1回家庭学習時間を調査し、意識づけを行う。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 「思考力・表現力等を問う」定期考査の実施や授業評価の取組に対する指導助言を行う。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。